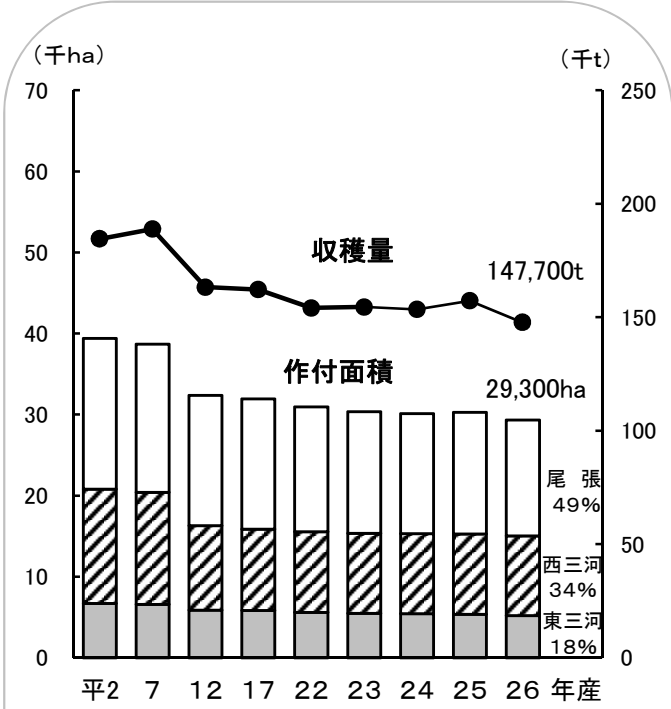


# 稲(米)・麦・大豆

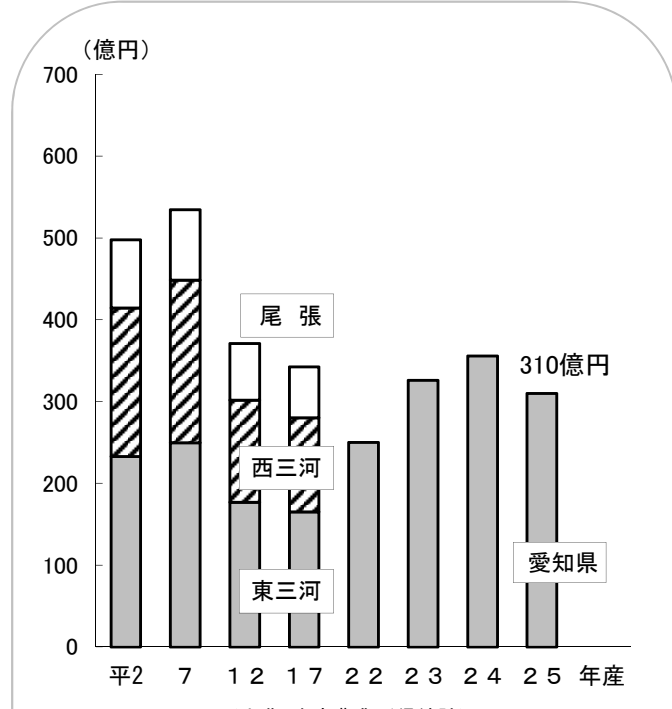
## 《稲作付面積と収穫量の推移》



(出典: 作物統計)

稲の作付面積は減少傾向であり、平成26年産は前年産に比べ1,000ha作付けが減少し、収穫量は147,700トン(作況指数99)で前年より9,600トン減少した。

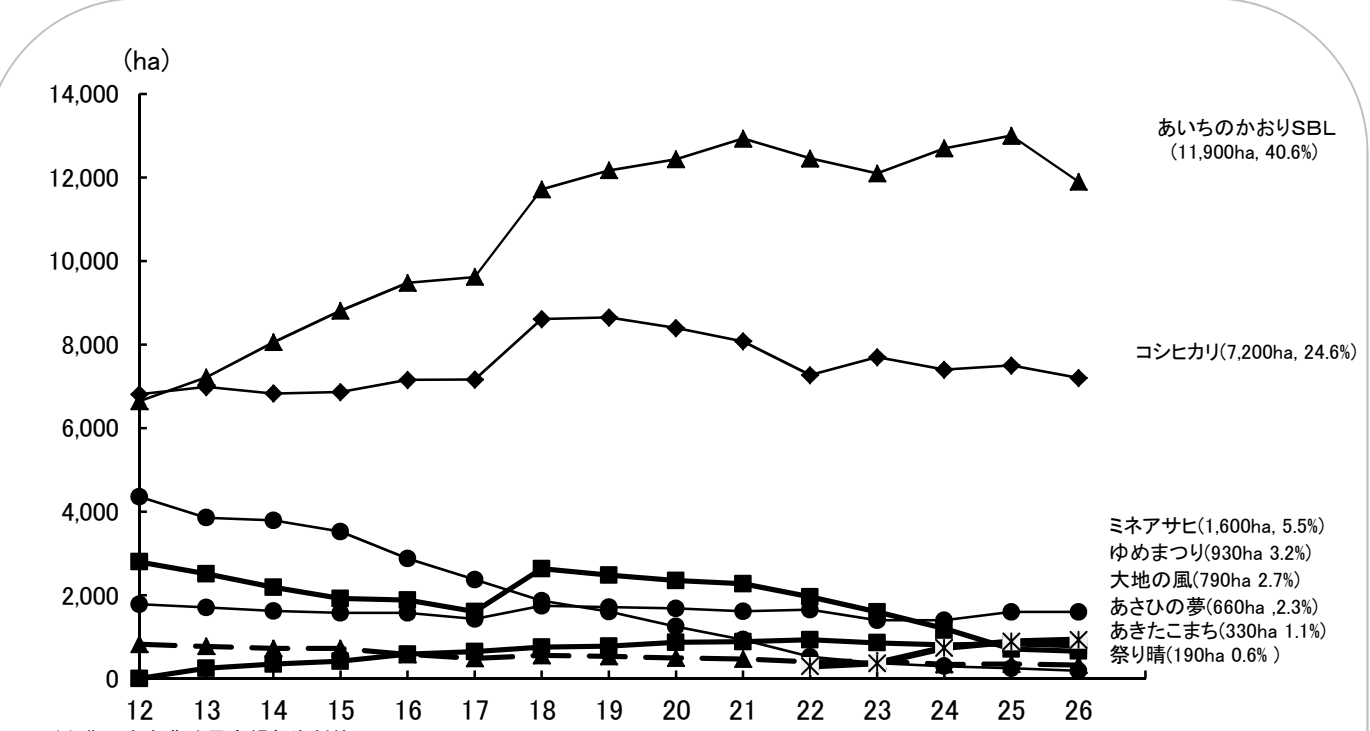
## 《米産出額の推移》



(出典: 生産農業所得統計)

平成25年産は前年産に比べ収穫量が増加したが、前年産に対して米価が低く推移したため、産出額は46億円減少した

## 《稲主要品種の作付面積の推移》



(出典: 東海農政局食糧部資料等)

注: 「あいちのかおりSBL」には「あいちのかおり」を含む。

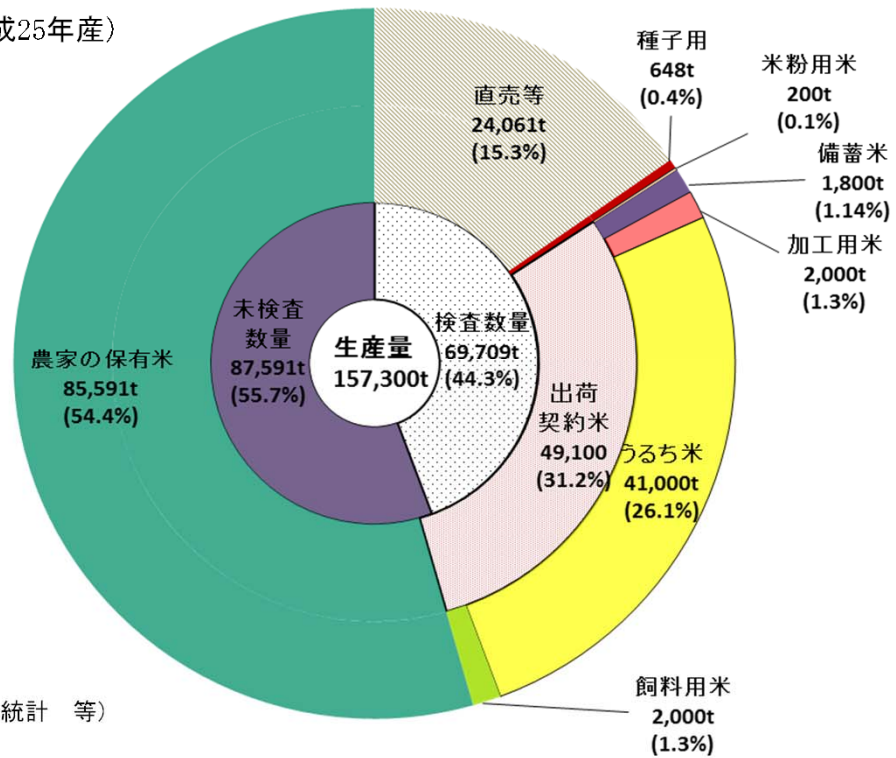
「あいちのかおりSBL」の作付面積は、平成13年産から県内第1位で、26年産は県全体の約4割である。「あいちのかおりSBL」と「コシヒカリ」の合計作付面積は県全体の約3分の2を占める。

品種別作付面積は、17年産までは作付面積10a以上の生産者を対象とした「品種別作付状況調査結果」(農林水産省調査)に基づく水稲作付面積の内数である。

18年産からは本調査が行われないため、水稲共済引受面積を基に県園芸農産課で推定した。

## 《愛知県産米の流通比率》

(平成25年産)



(出典：作物統計 等)

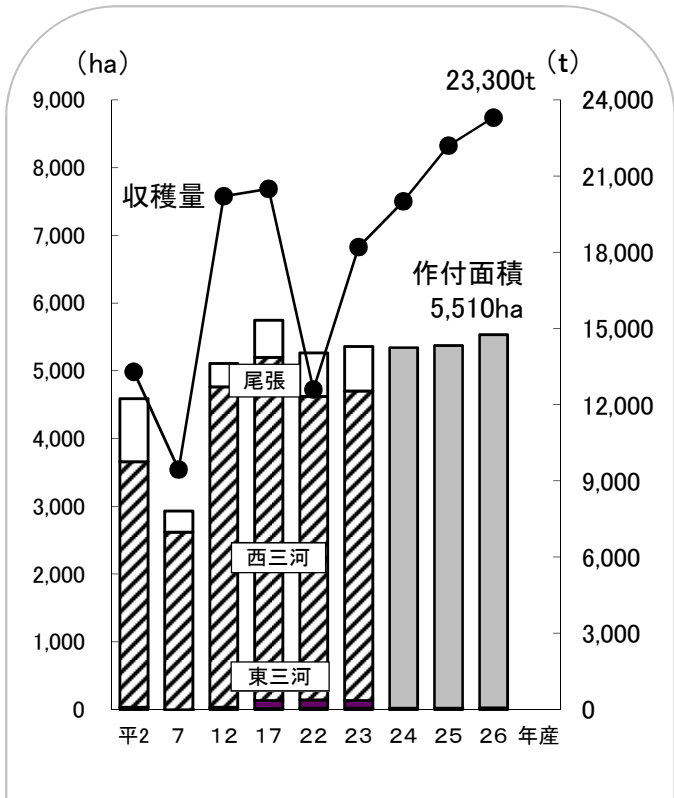
県全体の生産量157,300トンに対し、検査数量は約4割の69,709トン。  
 出荷契約米：契約により農協系統を通して集荷された米。

## 《稲・麦・大豆の作付体系》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
水 稻 (極早生)				○	—	△	△	△	△	△		
(早 生)					○	○	△	△	△	△		
(中 生)					○	○	△	△	△	△		
(晩 生)						○	○	△	△	△		
不耕起V溝 直播栽培		(整地)	○	○	—	△	△	△	△	△		
小 麦				△	△	△	△	△	△	△	○	○
大 麦				△	△	△	△	△	△	△	○	○
大 豆						○	○	△	△	△	△	△

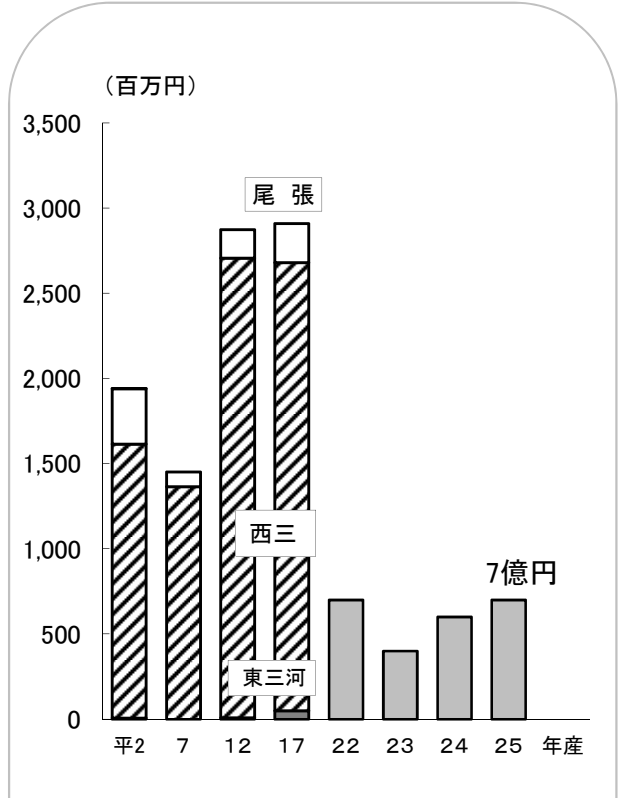
凡例： ○ 播種    ⊙ 移植    △ 出穂/開花    ▭ 収穫

## 《麦類作付面積と収穫量の推移》



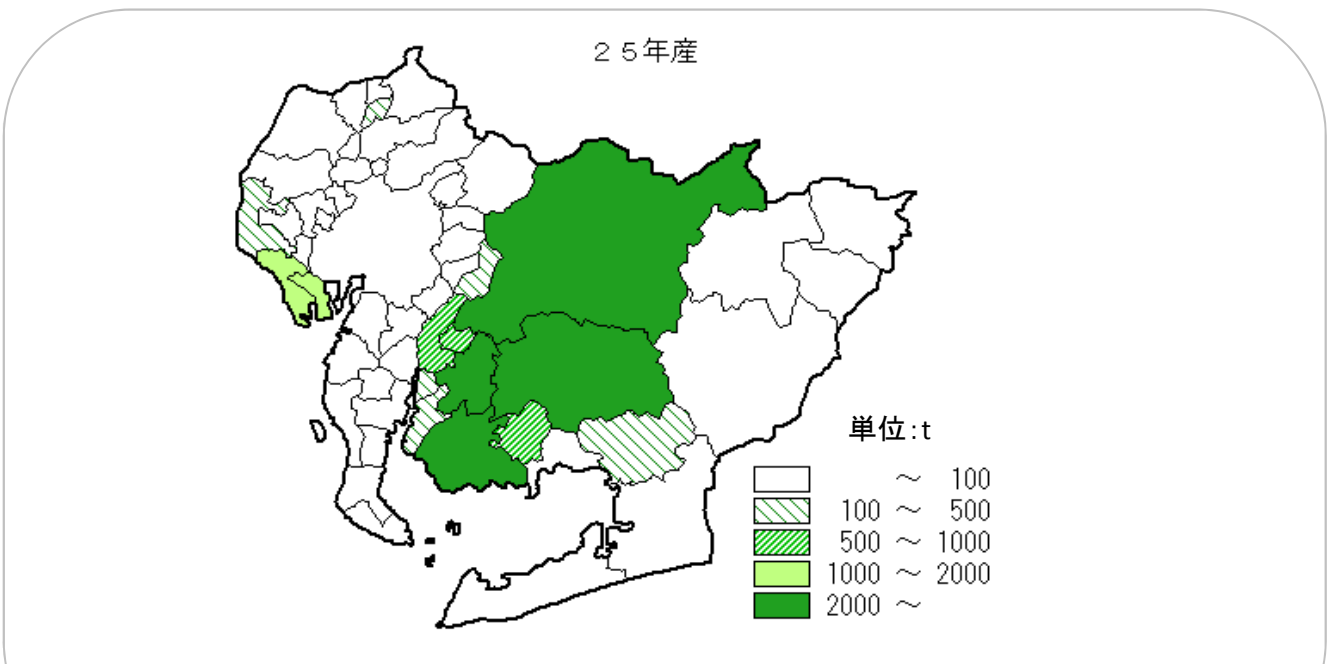
(出典：作物統計)  
 経営所得安定対策等の推進により、麦は転作作物として定着している。平成26年産は前年産に比べ作付面積が増加したことに加え、天候に恵まれたため、豊作であった前年産に引き続き収穫量が増加した。  
 平成24年産から地域別作付面積は未公表となったため、県全体面積とした。

## 《麦類産出額の推移》



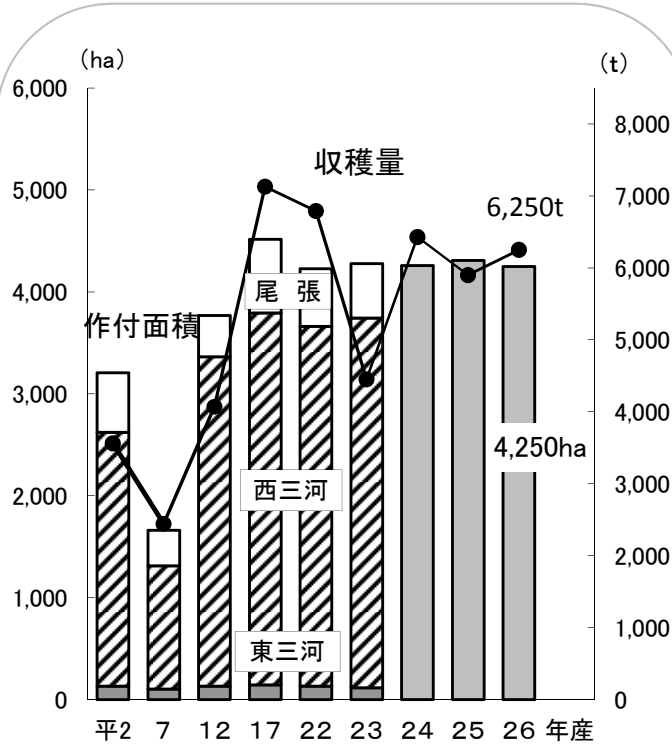
(出典：生産農業所得統計)  
 平成19年産以降の産出額の大幅な減少は、経営所得安定対策等の助成金額が算入されないことによる。  
 なお、平成19年以降の市町村別産出額が未公表のため、県全体額とした。

## 《麦の市町村別収穫量》



(出典：作物統計)  
 小麦は西尾市、安城市、豊田市、岡崎市など主に西三河地域で、大麦は大口町で生産されている。

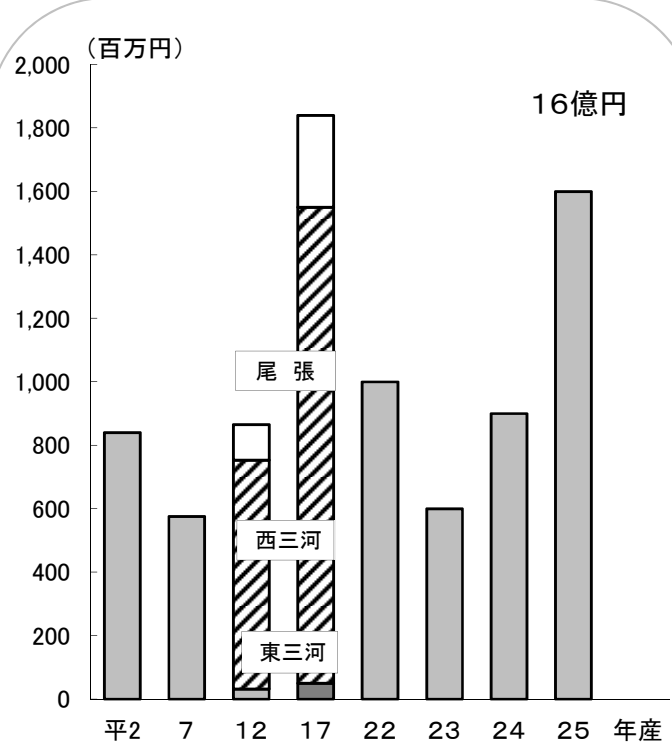
## 《大豆作付面積と収穫量の推移》



(出典：作物統計)

経営所得安定対策等の推進により、大豆は転作作物として定着している。平成26年産の作付面積は前年より60ha減少したが、天候に恵まれたこともあり、収穫量は増加した。平成24年産から地域別作付面積は未公表となったため県全体面積とした。また平成26年産は平成27年2月時点の速報値である。

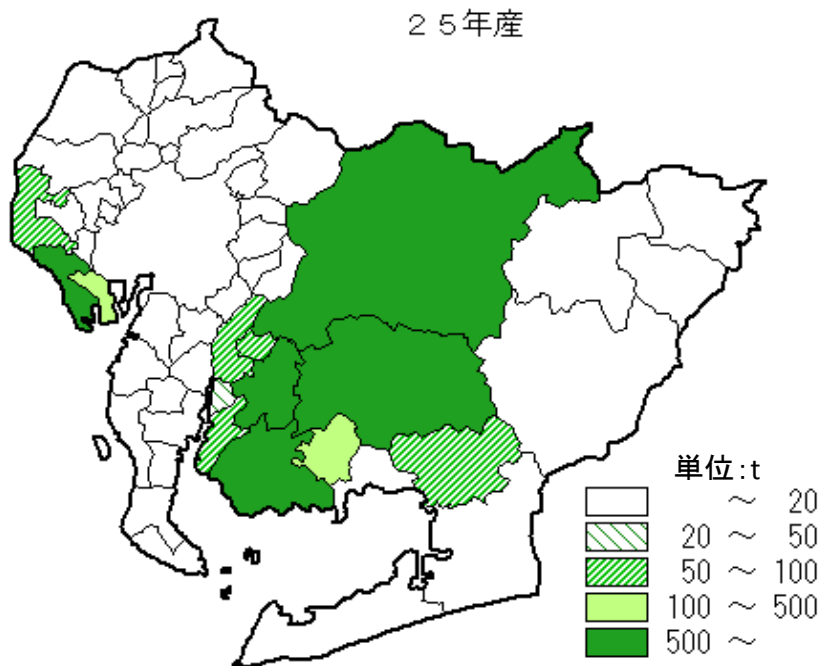
## 《大豆産出額の推移》



(出典：生産農業所得統計)

平成25年産の産出額は、大豆価格の高騰を受けて大幅に増加した。平成19年産以降の産出額は、水田経営所得安定対策の固定払部分が算入されないため、大幅に減少している。なお、市町村別産出額が未公表のため、県全体額とした。

## 《大豆の市町村別収穫量》



(出典：作物統計)

大豆は西尾市、安城市、岡崎市などの西三河地域、弥富市などで主に生産されている。